

道教組

2019年8月6日発行

DOKYOSO NEWS VOL.552

教職員とその家族を守る
全教自動車保険

5つの特徴

- ①無事故割引を引き継ぎます
- ②団体扱い割引を10%に拡大
- ③家族の車もまとめるとさらに割引
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

有限会社 川上企画

(道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78
TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472

道教組 夏の学習会

道教組運動の発展は 子どもを守る力になる!



8月2日に、道教組と北海道子どもセンターの共催で夏の学習会がおこなわれました。全教副委員長の宮下直樹さんの講演と、組合員3名によるパネルディスカッションで、道教組運動の魅力について学習し、語り合いました。

○宮下直樹さん講演要旨 「未来に展望をひらく全教運動」

①子どものこと、教職員のこと

単数の「Every」はたくさん物の一つひとつに意識が及んでいるという想像力が大切。

国連子どもの権利委員会第4・5回最終所見には、あまりにも厳しい日本の子どもの現状が指摘されている。

教育のつどいには、そうした子どもとの温かい実践がゆたかに展開されていることが報告されている。

②全教とは何か?

真に「働く者の立場に立った」教職員組合が求められ、全教が結成された。

全教結成からの教訓にもとづき、全教がこれまで切り拓いてきた教育への希望がある。

教育全国署名は30年間累計4億6千

万に達し、教育無償化をすべての政党が主張する状況がつくられている。

職場に全教の組合員がいるということ

に大きな意味がある。全釧路のTKPプロジェクトのように、職場は自分たちで変えられるということの実感が広が



っている。
③全教を強く大きくすること
青年の主体的なとりくみは全国で広がっている。「ゆいまーる」のとりくみも広がり、「芯になるもの」が生まれた」と、

沖縄での学びを自らの生き方につなぎ考えている。

加入の呼びかけと対話の重要性が改めて大切。「あなたに仲間になってほしい」の一言。対話に失敗はない。

教育のつどいへのとりくみもきっかけに、私学とのつながり、拡大が進んでいる。



英語の参考書に書いてあった。「EVERY」と「ALL」はどちらも「すべて」という意味だが、EVERYは単数、ALLは複数扱いだと。

ALLはたくさん物のひとまとめで捉えるのに対し、EVERYはたくさん物のうちのひとつ一つに意識が及んでいるからだ。

太平洋戦争では300万人以上の日本人が亡くなった。すごいたくさんだな・とボンヤリつかむのではなく、その一人一人に細やかな暮らしがあったことを想像してほしい。戦争は想像力を持って向き合わないと、その膨大さにきちんと考えるこ

単数の『EVERY』から想像しよう

朝日新聞2018.8.15「声」欄 神奈川県20歳大学生

とを阻まれてしまう。

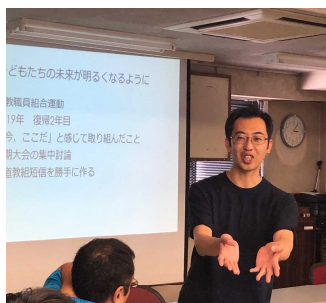
ロングラン中の映画「この世界の片隅に」では、当時の暮らしを中心に戦争が描かれる。主人公のすずさんは普通の主婦。でも、戦争がすすむうちに、そんな彼女の上にも焼夷弾は落ちてくるようになる。

現在もなお、世界中のあちこちで戦争が起こり続けている。私たちが平和を続けるためには他者の暮らしへの想像力が不可欠だ。憎い国だと思ったとしても、そこには私たちと同様、何も罪のない市民一人一人の「Every」な暮らしがあるということをよく想像してほしい。

○パネルディスカッション 「教職員組合の魅力語り 仲間の輪を広げよう！」

①内藤修司さん（宗谷）

魅力ある教師として、職場の力合わせをつくり出したい。教職員組合運動も、ひとりのひととしてできることを追求している。うんといえる仲間がいて、うんと言ってもらえる人でありたい。



②山本仁史さん（網走）

宗谷から網走へ。しばらく組合に入らなかった。若い組合員がいないことが、ためらう原因となる。組合員の魅力と、教文活動を大切にすることが加入の決意に。『みんなが網走教組』が今の基本スタンスになっている。



③高橋浩之さん（釧路）

かつては新年度に、校長と組合で「三者合意書」の確認をして、



民主的職場づくりを進めていた。新卒を対象に宿泊学習会も行われていたが、組合員の減少とともにとりくみも後退した。今は、組織実体に見合った運動をつくる動き。輝かしい歴史を大事にしながら、現状に合わせたとりくみへ。

④参加者の討議から

- ・仲間を増やす前に、まず組合員の思いを語り合うことから。
- ・組合活動への意思統一は、どこまでやりたいと思ってるのか。「やらなきゃ」では、運動としての広がりにつける。
- ・単組でLINE公式アカウントをつくった。支部でも作りたいたいの声も。
- ・青年、未組織者を誘うのに、「だいたい語り合ったら分かり合える」のポジティブさも。
- ・自信がなく、明るさが持てなかったもの。を言えない職場の事例はたくさんあり、組合が求められている。
- ・いつも「大変」と言いながらも「楽しそう」と言われる。先が見えないからこそプラス思考でやっていく。



- ・SNSも活用し、元気な同士がつながって何かが生まれれば。



道労連定期大会 「暮らしがあるから、人なんだ」

8月3日〜4日に、道労連定期大会が行われ、2019年度の運動方針などが提案されました。

2019年度運動のスローガンは、「暮らしがあるから、人なんだ」です。仕事が一番先、場合によっては命も奪われかねない状況があります。本来、仕事は生活を豊かにするためのものから、「暮らしがあるから」が当たり前前の社会をつくるために、職場・地域の共同を広げていくことが大切であると改めて確認しました。

道教組からは、執行部を含め6名が参加しました。上川教組・中村書記長と、道教組・斎藤書記長の2名が討論に参加しました。

○中村哲也さん（上川）の発言

いま「教え子を再び戦場に送らない」の危機的状況がある。

旭川市内で実施したコミュニティ・オーガナイズング学習会では、私たちがなぜここにいるのかを確かめることから始め、自分たちがやりたいことが見えてきた。

学校では、子どもへの疲れが深刻。ものをいわず、ノルマをこなすだけの学校。子どもを守るたたかい、組織を大きくすることが子どもを守る力になる。



「保健室からの発信」 夏の全国学習交流会参加報告 全釧路 柴田真規さん

はじめて、夏学に参加しました。釧路のレポート発表を務める方から、「みんなと一緒にいきませんかー」とのお誘いを受け、全国の仲間に出会えること、そして、富山での観光も楽しみにしながら、3人で出発しました。富山きときと空港にいたときに、37℃を越える気温には驚きました。充実した旅になるであろう予感でワクワクしていました。

全教養護教員部で毎年実施している夏学は、「すべての子どもと教職員の生命とひとみ輝く学校づくり」をめざし運営され、執務の向上やそのあり方について学習を積み重ね、これまで私たち養護教諭の道標として牽引されてきた場であることを実感し感謝の気持ちでいっぱいになりました。講演、講座、分科会とれをとつても内容が充実したものでした。また、「世界一美しいスタバ」や、美味しいお店で夕食をいただきながら、3人で職場や子どもたちのことなど、時間を忘れて語り合うことができた楽しい富山でした。

夏学での経験、学びを反芻し、目の前の子ども一人ひとりの発達・成長の保障について考え、学校全体で認識を共有できるように、2学期の執務につなげたいと思います。

